

## ブラジル訪問に 交流基金が助成内定

「芸能団」のブラジル訪問に対する助成金を国に申請していたところ、去る27日「審査の結果、助成金交付を内定」の通知が国際交流基金から入った。

助成金額は必要経費の50%程度ですが、不足分は「旬作落語会」を成功させることでメドが立ち、これでブラジル行は実現確定です。正直なところ事務局はホッとしております。

訪問団は、団長の笑福亭鶴笑、落語家の桂あやめ、林家染雀、マジシャンで「団」事務局次長の阪野登、お囃子の松村チカコ、お茶子の入谷なごみ、そしてコーディネーターは元JICAブラジル所長の松谷廣志の総勢7人。日程は、6月27日出発・7月9日帰国の13日間。

受け入れ団体は「ブラジル日本移民百周年パラナ祭典委員会」で、パラナ在住の日系人が中心になって組織されている団体です。

公演予定は、主催者の意向でサンパウロ州の日系人を中心に7公演ですが、「芸能団」としては現地の学校・保育所・病院・老人ホーム等、ブラジル人を対象にした公演回数を増やすように要請しておりまだ流動的。後は旬作落語会の成功です。

## エジンバラ公演は 文化庁が助成決定

えー、日ごろの行いが良ければ、良いことが続くもので、同じ27日に今度は文化庁から「貴団体より申請の『笑福亭鶴笑一座・エジンバラ・フェスティバル・フリンジ公演』について、審査の結果『採択』となりました」との通知がありました。

イギリスのエジンバラでは、毎年夏に1カ月わたって街をあげて世界最大のコメディフェスティバルが行われ、昼間は街のいたるところで世界から集まった芸人たちが自慢の芸を披露し、劇場はもちろんホテル・パブ・レストランで朝も昼も夜もコメディショーが行われます。

ここには世界中からバイヤーが集い、目をつけた芸人との出演交渉が行われ、芸人が世界へ羽ばたく登竜門としても注目されるフェスティバルです。

文化庁の助成金は国際交流基金より多く、申請金額の100%近くが認められています。

この助成金で経費はほぼ賄える見通しです。皆さんにご苦勞をおかけしなくても大丈夫のようです。

期間は8月6日出発、8月17日帰国。メンバーは

鶴笑、あやめ、染雀、阪野、松村、入谷のブラジル訪問団に加え、イギリス在住の鶴笑の弟子・笑福亭笑子が現地で合流し総勢7人の予定。

公演は現地の劇場を中心に行いますが、会場の交渉・チラシやチケットの印刷・舞台設備など、現地の準備はすべてこれから笑子さんがおこないます。

関係者の間では「2つの助成は文化交流使として、また国際交流基金の要請にこたえ、世界中に日本の伝統芸能を紹介してきた鶴笑さんの功績だ」との声がかしきりです。

## 読売新聞も後援決定 地元紙は応援記事

「芸能団」のブラジル訪問を朝日新聞・毎日新聞につづき読売新聞も後援を決定しました。

これで、兵庫県・JICA大阪・JICA兵庫・(財)日博協会と大手3大新聞社がそろって後援を決定しました。

また、「芸能団」の事務所がある淀川区の地域新聞「淀川散歩」が、4月号で「お笑いネタで、世界を励ましている大阪の落語家たちの集団NPO法人国境なき芸能団が、この6月にブラジルで公演する。移民百年の記念行事として日系人らを元気づけることが目的」と、ほぼタブロイド版一頁を使って「芸能団」と笑工房を応援・紹介しています。

また、笑工房代表で「団」小林事務局長が、朝日新聞「私の視点」に「大阪の夢=大阪を文化と環境の都市に」（3月25日朝刊）を書いたところ、たくさんの人から「良い記事だ」「含蓄のある意見だ」等の激励の電話が届いています。

意義ある仕事をしていると多くの人々が応援してくれることを、ひしひし感じる今日この頃です。

## チケット普及4月が危い 事務局の油断反映？

2回の「ニュース」で「前売り券完売の恐れも」「前売りチケット順調」等、「楽観論」を流してきた結果か、4月のチケットが大苦戦しています。

3月28日現在の売れ行きは予定の約33%。このままでは「4月は失敗」の可能性もあり、事務局は深く深く反省しています。

ただ、昨年頑張っていたいただいた会員皆さんからの注文が今回は弱く、これが予想に反する苦戦につながっています。皆さん、あと10日少々、4月興業の取り組み、どうかよろしくお願い致します。